

## 「令和4年度 府民講座」 発達障害のある子ども達の未来に向けて ～将来の自立に向けた、 幼児期から青年期に至る支援と対応～

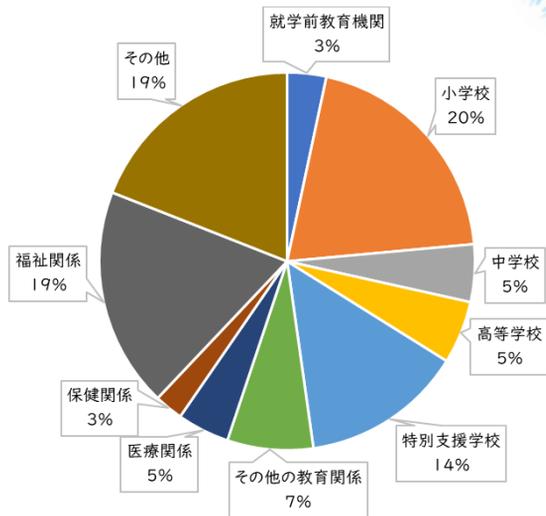
令和5年1月28日(土)  
オンラインライブ配信により実施

講師 **小谷 裕実 氏**  
京都教育大学 教授  
医学博士・府専門家チーム委員

参加申込者数：446名（府民、教育関係者、福祉・保健・医療関係者 他）

京都府スーパーサポートセンター(SSC)開設当初から続けて参りました「府民講座」を、今年度は、オンラインでのライブ配信により開催しました。当日は、教育関係者だけでなく、保健、医療、福祉関係、保護者の方など、総計400名以上もの府民の皆様にお申込みいただき、たいへん充実した研修講座となりました。

### 参加申込いただいた方の御所属



講演では、小谷裕実先生から、発達障害について、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠陥・多動症(ADHD)、限局性学習症(SLD)について、それぞれの特性や課題等を医療的な知見を含め分かりやすく教えていただきました。また、幼児期、学齢期、思春期・青年期、それぞれの年代ごとの課題と適切な支援のポイントについて、具体的な事例を交えて、丁寧にお話しいただきました。

随所で、発達障害のある子ども達やその保護者の方々と関わっておられる中で大事にされていること等をお話しいただき、伴走者として寄り添いながら伝えておられるお言葉に心が温まりました。

幼児期から思春期・青年期まで段階を追ってお話しただいたことで、将来の姿を見据えながら、子どもの成長を見守り、支援していくことの大切さを改めて学ぶことができ、有意義な研修講座となりました。



### 参加者の方々の御感想より(一部抜粋)

- 現在受け持っている児童にとって、どのような指導・支援が必要かということと、それが未来に向けてどのようにつながっていくかをわかりやすく知ることができた。目の前の児童のためにも、保護者と学校の連携はもちろん、たくさん関係機関との連携を図っていきなと思った。
- 就学前から就労までの発達障害と困りのある子ども達の様子や支援の仕方が年代によって大きく変わることもわかった。一貫して見ておられるドクターだからこそのお話だと思った。
- 学齢期までの支援は周囲の理解であり、青年期・成人以降の支援は自己理解であるということが印象に残った。

### 講演についての感想 アンケート回答(205件)



- 目先の対応ばかりで、なかなか将来像が見えにくくなりがちだが、就労までのそれぞれの目指すべきことがクリアにされて、とてもすっきりとした前向きな気持ちで拝見させていただいた。
- 大変多くの臨床経験からのお話、また障害児者に対する温かいまなざしに感銘を受けた。学齢前から学齢期、高校、大学、就労まで一人の人の人生をどう生きていくか、本人と支援者の両面から丁寧に教えていただき、大変参考になった。

参加者の皆様には、開催形態に御理解をいただきましたことにお礼申し上げますと共に、オンライン配信上、音声や映像の一部に不鮮明な部分がありましたことをご詫言申し上げます。御参加いただいた皆様からの御意見等は、今後の研修会企画等のSSCの取組に活かして参ります。今後とも御支援のほどよろしくお願い申し上げます。